

長野の林業

No.
390

2023.11.10

特集

若手狩猟者の取組

トピックス

- ・県産材で「ウッドチェンジ」
- ・林業士リレーコラム
- ・県苗組創立70周年

地域の話題

- ・諏訪地域/北信地域

県森連だより



オーストリア連邦森林・自然災害・景観研修センター(BFW)、信州大学農学部※及び長野県林務部の3者による覚書の締結【オーストリア・ウィーン】
※今回欠席のため予めサインした覚書を持参



ウィーンの森・森林公園(ラインツ動物公園)にて、持続的な林業経営視察【オーストリア・ウィーン郊外】



リベリア林業専門学校学生による現場実習(ハーベスタによる木材生産)【フィンランド・バルティモ】



焼杉から着想を得た板材を外壁に使用した建物【フィンランド・ヨエンス】

海外の先進的な林業、木材産業及び木質バイオマスに関する技術の総合的かつ計画的な導入を促進するため、長野県海外林業技術等導入促進協議会が10月8日から10月15日までの8日間、オーストリア及びフィンランドにて森林・林業技術交流推進調査を行いました。主な訪問先：オーストリア連邦森林・自然災害・景観研究研修センター(BFW)、フィンランド北カルヤラ県行政事務所、リベリア林業専門学校 等



長野の林業
フルカラー版

若手狩猟者の取組



長野県は、県土の約8割を森林が占めることから、多種多様な鳥獣の生息地となっています。しかし、シカやイノシシ等の野生鳥獣による農林業被害が深刻化してきており、令和4年度の農林業被害額は、年間約7億3千万円となっています。さらに、野生鳥獣の保護管理に欠くことのできない狩猟者の高齢化や担い手の減少も課題となっています。

これらの課題解決のために尽力されている若手狩猟者のお二人に、狩猟者としての活動や狩猟の魅力についてお話を伺いました。

一人目は、和部 洋史さん（狩猟歴7年）

—現在はどうな活動をしていますか

「おしゃべりハンター」として

イベントや講演会等で幅広く狩猟の魅力を伝え、狩猟者の道へと一步を踏み出すサポートをしています。自分の実体験を交え、狩猟を身近に感じてもらうこと、面白いな、狩猟をやってみたいなと思ってもらえるように伝え方を工夫しています。

免許を取り、初めてシカがワナにかかった時、本当に捕獲しているのかな…とシカを目の前にして葛藤がありました。獲ったあとは、一日中モヤモヤした気持ちでした。



獲ったシカをみんなで食べた際に、「美味しかった」「すごいじゃん!」「狩猟おもしろそう」というプラスの言葉が返ってきて、これって良いことなんだ、これを広めていけばいいのでは、と思い、おしゃべりハンターを始めました。

—実際に狩猟を始めて

どのように感じていますか

狩猟は、「学び」です。

生き物相手に頭を使うし、よく考えます。それが自分の成長にも繋がりが、面白いと感じることが多いです。自分がやったことが誰かの助けになることでやりがいにも繋がるし、社会貢献にもなっていると思うと、もっと狩猟の魅力を多くの人に伝えていかなければならないと思っています。

—今後の目標はありますか

「狩猟って面白そう」で終わるのではなく「狩猟をやってみよう」と思う人が増えれば良いと思います。実際におしゃべりハンターとしての活動を通じて、狩猟を始めてくれた人もいます。狩猟の魅力を伝えて、狩猟者が増え、それが社会貢献となり、自然環境が良くなっていく、という良い循環をこれからも築き上げていきたいです。

和部さんは、横浜市出身で、軽井沢町への転勤を機に狩猟の道へ進むこととなりました。狩猟は楽しいと語る一方で、当初は移住者が一人でも多かったと言います。その時にイベント等で出会った方々とのご縁で現在も狩猟者として活動ができており、また、その経験があったからこそ、今度は自分が狩猟の入り口を開き、サポートできるような活動を続けていきたいと話してくださいました。



二人目は、菊地 哲也さん（狩猟歴12年目）

―なぜ狩猟免許を取られたのですか

祖父と父が東北のマタギだったこともあり、狩猟は生活の一部となっていました。免許を取りたいなとか流行りだから、ではなく、運転免許と同じ感覚で免許を取ることが当たり前だと思っていました。特別な気持ちはないんです。ただ、自分が今まで遊んできた、触れ合ってきた山や自然がなくなってしまうのではという危機感は持っていました。

―狩猟をしていて良かったことはありますか

一人で山に入ることが多いですが、山と一体となっていると感じることで、それが何より気持ちよく楽しいです。普通の生活では味わうことのできない感覚があり、命と向き合っていることの大切さなど、五感で感じられることが狩猟の魅力です。

小中高生への授業の講師として呼ばれることもあります。

森林被害の現状やシカの被害状況等を話していますが、シカをただ獲るだけではなく、活用していくことの大切さも伝えています。「いただきます」をする理由や、シカも動物も自分と同じ命であるということの大切さを感じてもらえればと思っています。

―今後の目標はありますか

軽井沢鹿工房を経営しており、命の循環／廃棄0をコンセプトに「ジビエを一般家庭に普及させること」を最終目標としています。一般家庭の食卓にジビエが並ぶようになれば、廃棄や埋設等で無駄になってしまっている命を大切にすることができそうです。また、捕獲頭数が増えれば、農林業被害



の軽減にも繋がります。そのため

には、狩猟者の育成も欠かせません。若手狩猟者を増やすこと自体も大切ですが、正しい知識を持った若手狩猟者を増やしていきたいと思っています。ワナの誤った仕掛け方によりシカが捕獲されないように学習してきてしまっているケースがあります。人間が学習をさせてしまっているのです。初心者から上級者までのそれぞれに応じた経験や知識のアップデートを図っていかねばならないと感じています。

また、近年は、狩猟ブームや移住ブームもあり、ゲーム感覚の延長線上で狩猟を行う人が増え、中には動物の命を軽視しているような人もいます。一頭一頭、尊い命をいただいていることを忘れず、命を獲ることに慣れないで欲しいです。その気持ちを忘れなければ自ずと事故もなくなるのではと感じます。

菊地さんは、「狩猟は簡単なことではなく、精神的にも大変なことが多い。しかし、農林業被害の軽減は、誰かがやらなければ変わらない。」と話してくださいました。さらに、コロナ禍を経て、移住者が増えてきている今、狩猟をもっと知ってもらい、狩猟者を増やすチャンスであるとお話されていました。

お二人に取材をさせていただき、狩猟者は、野生鳥獣に対する深い理解と感謝の気持ちを持っており、「いただく」ことをとても大切にされていることを実感しました。お二人のような熱い思いを持った狩猟者が増えることを願っています。

最後に、快く取材にご協力いただきました和部様、菊地様に、この場を借りて御礼申し上げます。

【鳥獣対策室】





県産材で「ウッドチェンジ」！

〔令和4年度事業で開発した木質製品のご紹介 その2〕



県産材製品の開発や需要拡大に 繋げる取組を支援しました

今回は、前号に引き続き、「ウッドチェンジ普及促進支援事業」の成果の一部をご紹介します。

「カラマツの集成材ベンチ」

〈齋藤木材工業株式会社〉

自社製造のカラマツ構造用集成材で、デザイン性が高く、温かみのあるベンチが完成しました。松本市の木家具屋とのプロジェクトであり、6mの長いベンチは、街をさらに素敵な空間にしています。



▲ベンチの製造工程
(動画：Youtube)



▲森の中ストア
(Instagram)

「木のケーキ」

〈in the pond〉

県産広葉樹をメインに使用し、木目や樹種の色の違いでケーキの層に見立てた、木ぬくもり溢れる製品です。思いの伝わりそうな素敵な木のケーキは、大切な人に送りたくなる一品です。



▲in the pond
(Instagram)



「県産材の木のお箸」

〈木下商店製箸所〉

外国製造の箸が多くを占める昨今、木曾ヒノキを使用した六角箸が完成しました。箸が六角形であると、箸を支える指の重心が定まりやすいので、持ちやすく、

使いやすい。食育にも観点を置いた、食べるのが楽しくなる箸です。



▲木下商店製箸所
(公式HP)



「悠Uサニールーム」

〈株式会社幾久屋〉

自社製のサニールームの仕様を木曾ヒノキに一新し、質と魅力を向上させたサニールームを開発しました。垂木や額縁等、内部の造作材に木曾ヒノキを使用しています。



▲株式会社 幾久屋
(公式HP)

暮らしに身近な生活用品等を

ウッドチェンジしてみませんか

今回の事業で取組のあった木質製品は、どれも身近な暮らしに寄り添うような、木の温かみを感じられる製品です。

また、本事業では、販路開拓のため、WEBで製品を購入できる環境改善の一部も支援しています。気軽に県産材製品を購入することができ、ぜひ手に取って下さい。



株式会社やまとわ 公式HPより



Red House Furniture 公式HPより



▲Red House Furniture
(公式HP)



▲株式会社やまとわ
(公式HP(ショップ))

【県産材利用推進室】



林業大学校の野外実習
緊張感のある伐倒作業

木曽林業士会会長の大久保一彦です。
私は学生時代に林業とは全く無関係な学習をしておりました。縁あって木曽森林組合にお世話になることになり、最初に長野県の主催する林業教室に参加して基礎から林業を勉強して来ることを命ぜられました。林業教室には県内の各森林組合の新採用職員や、市町村の人事異動により林務担当にな



林業士リーディングコラム

このコーナーでは、
林業士の活動状況などを
リーディング形式でお届け
していきます



林業大学校の野外実習
スイングヤーダによる集材作業

られた方々が多数参加され、塩尻市の林業指導所で寝食を共にしながら研修をしました。その後、二年目・山村青年研修会、三年目・林業ゼミナールと3年間の研修を経て7人の同志と長野県林業士として認定していただきました。
木曽林業士会の活動としては、地元の木曽青峰高等学校森林環境科の学習支援として、チェンソーの基本操作やワイヤーロープのアイ加工の実習指導を行いました。また、長野県林業大学校の野外実習のお手伝いも行っております。林業大学校では、列状間伐の伐倒から搬出集材、造材作業と高性能林業機械を使用した一連の作業を行います。約十人一班で、伐倒列

に先柱を設定し、ワイヤーロープの引き回し、滑車設置、スイングヤーダの運転、荷掛け作業・集材作業を交替しながら無線機を使用し合図を確認して行います。集材木はハーベスタで造材し集積します。材木の一部は学校へ運搬しチェンソー実習に使用します。この経験が学生たちの就職先で役立つてくれたら有難いです。

十数年前では一班(5、6人)にチェンソー2台、チャップス2枚を交替で使用するような状態でしたが、近年では、全員揃いの上下防護服にヘルメット着用、一人一台ずつのチェンソーで、整備・操作の実習時間も増大し技術の向上が目覚ましいものです。卒業生が、林業版のオリンピック大会「世界伐木チャンピオンシップ大会」に日本代表として出場し、種目別競技で初のメダルを獲得しました。その先輩に憧れて技術の向上に励む学生もおり、大変うれしく思います。
この他、木曽地域の林業研究グループとの合同ボランティア作業や懇親会を行ってきました。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として林業士会としての活動ができていませんでしたが少しずつでも復活させたいと思います。



林業士とは？

地域の森林林業現場で主体的に活動する方を増やし、林業の活性化を図るために昭和48年から「長野県が認定しているもので、県下各地で「地域林業の中核的人材」として活躍しています。

プロフィール

大久保一彦 62歳
長野県林業士会 理事
木曽林業士会 会長
塩尻高等学校食品加工科、
東京農業大学短期大学醸造
学科 卒業
木曽森林組合勤務(令和3
年度定年退職後継続雇用)
現在木曽町バイオマス事業
協同組合で、燃料用チップ
や薪の製造配達業務に従事

諏訪地域

森林の里親企業と連携した 主伐・再造林モデル

諏訪地域は、カラマツ・アカマツを中心に人工林が成熟期を迎え、「主伐・再造林」が徐々に進められています。その一方で補助事業の対象とならない、森林経営計画の策定ができない林分も存在し、そのような箇所での「主伐・再造林」を実施した事例を紹介いたします。

発端は、富士見町立沢区の団体有林関係者からの依頼でした。「これから我々の森林をどう進めていけばよいか、相談に乗って欲しい」とのこと。地区担当の林業普及指導員を中心に関係者と森林調査や説明会を重ね、団体有林が細かく点在し、森林経営計画が困難であることから、「森林（もり）の里親促進事業」を提案しました。

タイミング良く、条件が合う企業も見つかり、お見合いや意見交換を進め、令和5年4月1日に契約の運びとなりました。約3・6haのカラマツ・アカマツ混交林を2年おきに1・2ha主伐し、毎年0・6haの植栽を契約企業と立沢区が連携して植栽します。また、契約企業は、社員参加の植栽活動と植栽経費の一部を負担しています。緑の基金公募事業も活用し、苗木（一部）、コンテナ苗の植穴用器具を購入しました。



良い汗を流した後の集合写真



植栽前のレクチャーも地元で



はじめての植栽



1人20本程度のカラマツ苗を植栽

令和5年6月10日（土）に契約企業、地元関係者、森林組合、行政など約50人が参加し、熱心にかつ楽しく植栽が行われました。家族での参加もあり、子どもから大人まで森づくりに取り組みました。「主伐」がなかなか地元住民に受け入れられないケース

もありますが、このパターンを他の地域にも提案中です。「主伐・再造林」が当たり前になる日を目指して、補助事業を含め、様々な手段で事例を増やして、素材生産量の増、森林の若返りを進めていきたいと考えます。

【諏訪地域振興局】

北信地域

令和5年度北信州森林祭・第七十三回 長野県植樹祭（北信会場）が行われました

「北信州森林祭」は、北信地域の健全な森林づくりを進めるとともに、森林を守り育てることの大切さを広く普及することを目的として毎年開催しています。今年度は、県植樹祭と併催して、10月14日（土）に飯山市の戸狩温泉スキー場で行われました。

式典では、地域の森林整備等に貢献された飯山地区財産管理委員会に「北信州林業賞」が贈られました。また、森林や緑と触れ合い、さまざまな学習・体験活動を行っている「みどりの少年団」を代表して、地元の小学生から「みどりの誓い」が発表されました。

その後、今は使われていないゲレンデ跡地に移動し、地元で古くから自生しているブナとミズナラの苗木を植樹しました。土が固く、子供では掘りにくい場所は大人が手伝うなど、参加者全員の協力のもと、作業は無事に終了しました。

当日は天候にも恵まれ、自然の中で心地よい時間を過ごせました。翌日は雨が降り、苗木も元気に成長できそうです。

これからも、多くの皆様にご参加いただきながら森林づくりを進め、より一層、緑豊かな地域となるよう取り組んでまいります。



220名の方にご参加をいただき、ブナとミズナラ 計500本を植樹しました

【北信地域振興局】



記念式典会場



記念発表
「県苗組とともに築く新しい林業と
コンテナ苗の未来」
発表者
県森林づくり推進課
造林緑化係長 井出政次 氏



富澤修一氏へ感謝状贈呈

長野県山林種苗協同組合は昭和27年7月31日に設立されて、昨年、記念すべき節目の70年を迎えることができました。

新型コロナウイルス感染症の影響をうけ、本年8月29日(火)にホテルメトロポリタン長野(長野市)で記念式典を開催しました。

記念式典では、私があいさつをした後、長野県森林づくり推進課造林緑化係長 井出政次氏から「県苗組とともに築く新しい林業とコンテナ苗の未来」と題して記念発表をしていただきました。その後、平成17年から令和3年までの17年

間にわたり本組合の理事長を務められ、本組合の発展と本県の苗木生産の振興に尽力していただいた富澤修一様に感謝状をお贈りし、長野県の須藤林務部長と中部森林管理局の高橋次長からご祝辞を賜り閉会しました。

また、創立70周年記念誌「大きく育て我らの苗木」を発行し、組合員と関係者の皆様にお配りしました。

県苗組のこれまでの70年間は紆余曲折をたどりましたが、諸先輩各位をはじめ、長野県並びに中部森林管理局はじめ、森林組合など

関係する皆様方にご支援とご指導、ご協力を賜り創立70周年を迎えることが出来ました。皆様に深く感謝します。

戦後植栽された多くの森林が成熟する中、「伐つて、使つて、植える」主伐と再造林の時期を迎えています。

将来の健全な森林を育成するための基礎となる優良な苗木を生産し、安定的に供給することが我々の責務です。

そのため、これまで培ってきた技術と知恵を駆使し、コンテナ苗等新たな苗木需要の変化にも対応しうる苗木生産・供給体制づくりに努め、種苗業界の発展のため、前途を切り開く糧となるべく努力をしてまいります。

創立70周年を契機として、あらためて山林種苗の重要性和県苗組の使命に思いをいたし、森林・林業の再生と種苗業界の活性化への契機、足掛かりとなるよう深く念じるものであります。

山林種苗業界の発展のため、引き続き、一層のご指導とご協力をお願い申し上げます。

長野県山林種苗協同組合 創立70周年



理事長 小戸直彦 氏



記念誌表紙



記念品の木桶

【長野県山林種苗協同組合】



注目のウツデイスポーツ 「クツブ」でめざすアレ



「クツブ」というスポーツをご存知でしょうか？クツブ(Kubb)はスウェーデン語で薪まきを意味しています。用具は全て木製で、子どもから高齢者まで幅広い層の方が木に親しめる遊びとして注目されています。

クツブの試合では、2チームが長方形のコートを挟んで対峙し、カストピンナ(長さ30cmの円柱状の棒)を交互に投げ合い、対戦相手のクツブ(高さ15cmの直方体の木片)にぶつけて倒していきます。相手クツブを全て倒すと、コート中央のキング(高さ30cm程度の大



カストピンナがキングに命中！
勝利の瞬間！

木片)への挑戦権が与えられ、キングを倒せば勝利です。

10月14日には、中部森林管理局長杯クツブ大会が長野市の若里公園大芝生広場で開催され、県林務部のほか、県内、東京、群馬などから、林野庁職員など約80名が集結。14チームが親睦を深めつつ、アレをめざして熱い闘いを繰り広げました。当日は爽やかな晴天に恵まれ、カストピンナがクツブに命中すると、「コーン」という乾いた音が、高く澄んだ空にきれいに響いていました。

クツブの用具はネット通販などでも入手できますので、職場で、学校で、ご家族で、ぜひプレーしてみてくださいいかがでしょうか。



ばずまふ
(農林水産省)



日本クツブ
協会HP

【信州の木活用課】

近年、毎年のように過去に例のない
自然災害が発生しています。
主伐期を迎えた森林 再造林地に安心を
ご加入はお近くの森林組合へ

TEL:026-226-2504

長野県森林組合連合会

森林保険

※1ha 加入時の例

樹種	林齢	加入年数	保険金額(補償額)	保険料(掛け金)
カラマツ	1年生	1年	800,000円	3,432円
ヒノキ	51年生	5年	4,500,000円	65,205円



▲法改正や社会情勢が変化していく中で、より効果的な指導監査への探求は尽きない。

9月11日～12日に長野市のホテルJALシティ長野を会場に令和5年度中部圏森林組合連合会監査士研修会・指導担当者会議が開催され、当日は新潟、富山、石川、福井、愛知の各県森連と全森連から18名が出席しました。初日は監査士研修会として各県での監査調書や監査の進め方について意見交換を行いました。その後、全森連組織部宮城守秀担当部長から「J-クレジット制度」について情報提供があり、2日目は指導担当者会議としてインボイス対応や人材育成等をテーマに各県域や全国での指導事業の実施状況と問題点について協議がなされました。より良い組合運営に向けて系統同士の連携を深められました。

中部圏森林組合連合会 監査士研修会・指導担当者会議



▲林和弘長野県森林組合会長（飯伊森林組合）による挨拶

第11回長野県森林組合交流会

10月11日～12日に佐久市と佐久穂町を会場に「令和5年度第11回長野県森林組合交流会（主催：長野県森林組合連合会）」が開催され、県内18森林組合と長野県森連から52名が参加しました。初日は、県産材を構造材や内装に活用した「長野県立武道館（令和2年3月開館）」の視察を行ったあと、佐久一萬里ホテルにて全体会議が行われました。会議の中では、人材確保に向けた課題や森林環境譲与税の活用、主伐・再造林に向けた、標準単価の見直しなど森林整備補助事業への要望や県との施策懇談会の再開について協議されました。



長野県立武道館

2日目は佐久穂町の再造林現場で、南佐久北部森林組合（開催地組合）が進める「グラップルレーキ及び立木破砕機による機械地拵え」の作業を視察しました。グラップルレーキは急傾斜地での地拵えを安全かつ効率的に行うため、改良を重ね開発した方法で、8mのカラマツ材を柄に鉄鋼製のレーキを取り付け、グラップルで作業道から枝条を片付けるもので、林野庁の令和4年度革新的造林モデル事例としても紹介されています。シンブルな構造でありながら、その効果には一同興味津々の様子でした。長野県森林組合連合会では、本交流会での情報共有を踏まえ、森林整備の円滑な実施に向けて県への要望活動等を行って参ります。



◀▲グラップルレーキを説明する南佐久北部森林組合島崎和友参事と立木破砕機



長野県林業職員協会県大会 in長野市飯綱高原

9月28日、29日の2日間、長野市の飯綱高原で令和5年度長野県林業職員協会県大会が開催されました。

2日間日程で開催したのは平成30年度以来の5年ぶりとなり、当日は会員の森林組合職員、市町村林務担当など県内各地から35名が参加しました。1日目は、飯綱高原の大座法師池にある「長野フォレストヴィレッジ森の駅」に隣接する森林内で、林業技術競技会が開催されました。



▲あいにくの雨模様であったが、見事、誤差無しの回答もあるなど、大いに盛り上がった

開会式では、長野県林業職員協会の雨宮一志会長と長野県森林組合連合会の高田幸生専務理事より主催者挨拶があり、長野地域振興局林務課課長 棚秋隆哉様、長野市森林いのしか対策課課長 山口正樹様、長野県森林組合組合長 和田智様より来賓の挨拶をいただき、競技会がスタートしました。

競技は7種目（樹高、胸高直径、単木材積、林分面積、林分材積、作業道距離、架線距離の目測）について機器を用いずに計測を行うもので、日々の業務で培った感覚や身体を使い工夫して答えを求めています。



▲新たな森林整備の財源としても期待されるJ-クレジットについては初めて内容を知る者も多かったこともあり、実際の業務に関する質問なども上がった

2日目は宿泊・懇親会会場となったアソビバナガノパークの大会議室にて「J-クレジット制度研修会」が行われました。

二酸化炭素吸収源として森林の役割が期待され、東京証券取引所にカーボン・クレジット取引所が開設されるなど注目を集めつつあるJ-クレジット制度について、全国森林組合連合会組織部部長 淡田和宏様、農林中央金庫関東東業務部長 長野県担当部長 島田博之様を講師に迎え、制度の概要や森林由来クレジット創出に必要な要件のほか、3月に開設されたサポートサイト「FC-BASE」をはじめとした森林組合システムで行う支援策について説明いただきました。

2日間日程の県大会が行われなかった期間に新たに加入した会員も多く、地域は違えど、ともに長野県の森林・林業に携わる者同士交流を深めることができました。



▲「ぎふ木遊館」で説明を受ける一行 近隣県での取り組みに大いに刺激を受ける2日間となった

来年は長野県が開催県となります。

中部6県森林組合職員連盟 ブロック会議に出席

8月23日、24日、岐阜県岐阜市で第48回中部6県森林組合職員連盟ブロック会議が開催され、岐阜、新潟、富山、石川、福井の各県会員と全国森林組合連合会から26名が参加し、長野県林業職員協会からは雨宮会長と北島副会長、事務局の3名が参加しました。

初日は各県域での、森林組合職員育成や組合員とのつながりを深める取り組み、境界明確化事業などのテーマで情報交換が行われました。

2日目は岐阜県が進める「ぎふ木育30年ビジョン」の一環で令和2年7月に開館した「ぎふ木遊館」と、今年1月に竣工し、岐阜県産材が内装に使われている「岐阜県新庁舎」を視察しました。



昨年が増えて大盛況♪
ご来場ありがとうございました！



2023

長野県協同組合 フェスティバル



10月1日に長野市のながの表参道セントラル・スクウェアで「長野県協同組合フェスティバル2023」が開催されました。

このイベントは、長野県内における協同組合間連携の一環として、組合員同士の交流や協同組合の活動を県民の皆様を知っていただくことを目的に、国際協同組合年の2012年に始まり、今年で9回目となります。

昨年に引き続き隣接する中央通りで開催の「善光寺表参道秋まつり」と併催となり、お神輿や三陸大船渡さんままつりなどで賑わう中、それぞれの組合員や立ち寄ってくださった方を併せて約10,000人と昨年より更に沢山の皆様にご来場いただきました。

当日は、農協や生協、ワーカーズコープや医療生協など県内の協同組合、被災地復興に取り組む県内外の観光協会、NPO法人、行政ほか合計36ブースが出店し、りんごやぶどうなど旬の農産物や加工品の販売のほか、乳搾り体験コーナーや健康や環境について学べるクイズやワークショップなど多くの親子が訪れ大変賑わいました。

長野県森林組合連合会では、森林組合購買による林業資材や乾椎茸などの即売と北アルプス森林組合で製材したクリやさくら等広葉樹材の板材の販売をいたしました。

広葉樹板材の販売は、DIYやクラフトに親しむ方を中心に興味を持っていただき、実際に触れたり香りを楽しんでいたことで信州の木の魅力を伝えられたと思います。

また、中央通りでは秋まつりの一環で（一財）長野県林業労働財団が高性能林業機械のハーベスターとフォワーダーの展示とハーベスターのVRシミュレーター体験を行っており、子どもたちがヘルメットを被って運転席で写真撮影するなど、普段見ることのない林業機械や山での仕事を知って楽しむ姿があり、協同組合フェスティバルでの出展と併せて長野県の森林・林業をPRすることができました。

雨上がりのスタートとなりましたが午後にかけて晴れ、多くの方々に協同組合の活動について知っていただいた一日となりました。

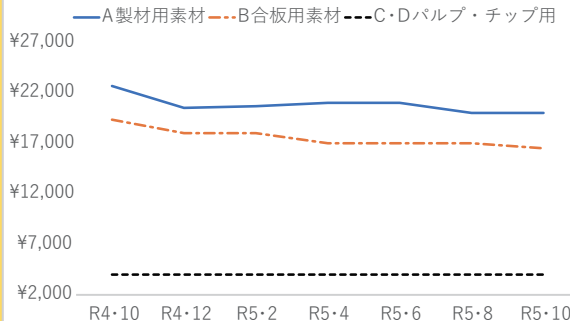


▲ TOiGO 前に大迫力のハーベスターが鎮座 !!

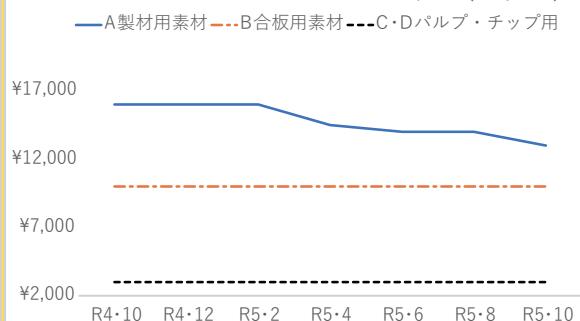


長野県の木材市況

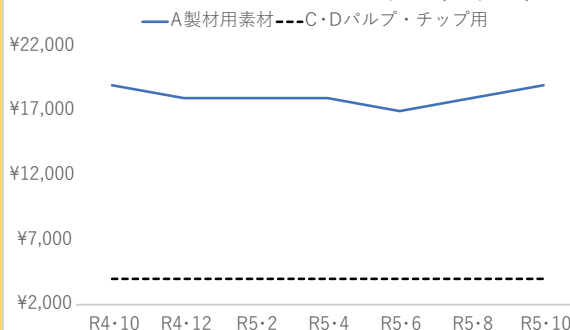
カラマツ用途別素材立米単価 (円/㎡)



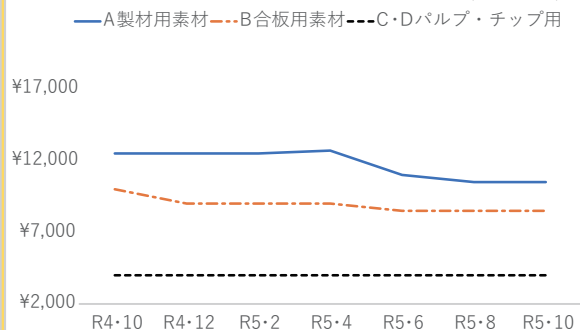
スギ用途別素材立米単価 (円/㎡)



ヒノキ用途別素材立米単価 (円/㎡)



アカマツ用途別素材立米単価 (円/㎡)



※北信、中信、伊那木材センターの市況表より作成

北アルプスやハケ岳など高標高地で冠雪し、里にも秋が足早に訪れつつある 10 月の長野県内各木材センターでの市売では、伐り旬を迎えた広葉樹の良材を中心に応札活発となり、ナラやクリ、トチなどに高値が付きました。

スギ・カラマツ・ヒノキの製材・合板向け丸太は需要回復の兆しを荷動きに見せるものの価格は横ばい～下げという市況です。

アカマツは夏場を過ぎたものの価格は横ばいで、秋以降の需要に期待です。

11 月の記念市から 12 月に納市、

1 月に初市と特別市が続きますので、これから伐採または出材を計画されている方は各木材センターにご相談下さい。

【当連合会は合法木材に取り組んでおります】

合法木材供給事業者の認定を取得し、出荷時には合法的に伐採された木材であることのコメントと合法木材認定番号及び伐採地と伐採箇所が記載された納品書及び伐採届の提出をお願いします。

※安全のため、木材センターでの荷下ろし・積み込みの際には車止めの使用とヘルメットの着用をよろしくお願いします。



◀▲中信木材センターに出品されたトチ(上)とクリ(左)

県森連 HP では市売情報を写真付きで随時更新しております！

最新の市況表もご覧いただけますので、納材や入札の検討にご活用ください！

「長野の林業」のバックナンバーはこちらから♪



長野県森連

